

2023年6月24日(土)

## 「慰霊の日」に想う

昨日6月23日は、琉球政府・沖縄県が定めた『慰霊の日』で、太平洋戦争末期、沖縄本島を舞台にした地上戦などで亡くなられた方々を鎮魂し、平和を祈念する日です。78年前のこの日、いわゆる沖縄戦での組織的な戦闘が終わった日\*とされ、沖縄では条例によって学校を含め公共機関は休日となっています。糸満市にある「平和の礎<sup>いしじ</sup>」に名を刻まれた人は、日米の軍人のほか、子ども含む沖縄住民や当時は植民地だった朝鮮半島から連れて来られた方々、外国人を含めて20万人にもものぼります。

今年の戦没者追悼式では、若者を代表して私立つくば開成国際高校3年生の平安名<sup>へいあんな</sup>秋<sup>あき</sup>さんが「平和の詩」を朗読しました。高校2年時で先島諸島への修学旅行を行っている本校では、今朝のSHRで「平和の詩」の写しを全クラスで掲示してもらい、皆に考えてもらう時間にしました。ウチナーグチ(沖縄の言葉)で「命<sup>ぬち</sup>どう宝」は、命こそ宝という意味で、沖縄県出身の画家・作家の山里 永吉[1902-1989]の戯曲に登場する琉歌が原典であるとされ、沖縄戦を生き抜いた教訓とされています\*\*。沖縄ではゆっくりと流れる心地よい時間を「ウチナータイム(沖縄時間)」と言ったりしますが、想いやりや真心を「チムグクル」と呼び、日々の生活の中で大切にしています。住民の心を引き裂いた戦争と裏切りに対し、「慰霊の日」にこそ「チムグクル」をすべての人に伝えたいと、平安名さんは訴えています。やがて訪れる「広島の日」「長崎の日」そして「終戦記念日」、今年も私自身の夏の課題として新しく上程された戦争にまつわるいくつかの本を読みながら、静かに迎えたいと思います。

\*これを22日とする異説もある。

\*\*沖縄戦を舞台とした反戦劇『命<sup>ぬち</sup>どう宝 = 響け平和の鐘』は高校文化祭でもよく上演されている。

校長 石飛 一吉